

学力向上を図るための全体計画

児童の実態

- ・明るく元気
- ・素直で優しい
- ・学力の個人差が大きい
- ・自分の考えを表現することが苦手な児童が目立つ

本校の教育目標

- 正しく
 - ・自分の考えをもち、表現できる子ども
 - ・創意工夫して、解決に努める子ども
- 強く
 - ・最後までやりとげる意志の強い子ども
 - ・健康づくりに取り組む子ども
- やさしく
 - ・相手の立場にたって考えることができる子ども
 - ・互いに助け合い、豊かな心をもつ子ども

社会の要請

憲法
教育基本法
学習指導要領
都の教育目標
区の教育目標

等

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- (2) 個性・能力に応じた指導を工夫し、学習意欲の向上を図る。
- (3) 発達段階に応じて家庭学習を充実させ、学習習慣の確立を図る。
- (4) 多摩川の自然や地域の文化、人材の活用などにより活動を工夫し、習得・活用・探求型の学習の充実を図る。
- (5) 全教育活動を通し、言語活動を重視し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- (6) 児童理解に基づく計画的な授業の実践を図る。

各教科の指導の重点

- ・地域の自然や文化を大切にする体験的な学習等、多様な学習活動の工夫により、習得・活用・探求型の学習の充実を図る。
- ・児童理解に基づく授業改善推進プランを活用し、基礎的・基本的な内容を十分に習得させると共に学習意欲の向上を図る。
- ・既習事項を反復することで基礎基本の習熟を図る。
- ・「聞く」「話す」活動を取り入れた指導計画を作成し言語活動の充実を図る。

本校の「学力向上のための手だて」

- ・「楽しく外国語活動に取り組み、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」という主題で校内研究を行い、外国語活動を中心として、児童が新しいことや分からないことをすすんで理解したい、自分の思いを伝えたいと感ずることができる学習活動の充実を図る。
- ・全校一斉に、週2回朝学習の時間を設定し、漢字や計算の基礎的な力をつけさせる。
- ・保護者の協力も得て読書に親しむ環境をつくり、読むことを通して国語の基礎的・基本的な力をつけさせ読書の楽しさを味わわせる。
- ・算数の学習において習熟度別指導を行い、各学年で必ず習得させる基礎的・基本的な内容を個に応じて学ぶことができるような学習環境を整える。
- ・放課後や土曜日・夏季休業中の補習に全校体制で取り組み、基礎学力の充実を図る。
- ・家庭と連携してよりよい学習・生活習慣を身につけさせる。

道徳教育の重点

- ・道徳教育推進教師を中心にして道徳の授業を充実させ、各教科、特別活動と関連をもたせながら、児童一人一人の道徳性を養う。
- ・道徳教育の全体計画に規範意識向上プログラムを位置づけるとともに、人間尊重の精神の育成に努め、自他の人格を尊重し互いに信頼し協力して助け合う態度を育てる。
- ・道徳授業地区公開講座を学校公開日に行い、地域や家庭と連携した道徳教育の実現を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・児童の興味・関心を基に、多摩川の自然や文化に目を向けさせ、体験的な活動を重視しながら、環境問題に進んで取り組む児童を育成する。
- ・パソコン等の情報機器に慣れ親しみ、適切に活用して、学習活動を充実させる。
- ・ものづくり学習・日本の伝統文化学習等で地域人材を活用した体験学習を展開し、個性と創造力を伸ばす。

特別活動の指導の重点

- 自主的・実践的に取り組む中で、自ら課題を見だし、その解決方法などについての合意形成を図り、協力して目標達成していく自発的・自治的な活動を行い、以下の点を育成する。
 - ・集団の中において、課題の発見、実践、振り返りなでの一連の活動を通して、よりよい人間関係を形成していく資質・能力を育成する。
 - ・様々な問題を主体的に解決しながらよりよいものにしていくとする社会参画の資質・能力を育成する。

生活指導の重点

- ・毎月の生活目標を各学年、学級で具現化すると共に看護当番が中心となって、指導の徹底を図る。
- ・学期毎に担任と児童の面談を行い、児童理解を深める。
- ・避難訓練、セーフティ教室を実施し、安全に対する児童の実践的態度を養う。
- ・「子どもの心サポート月間」の調査結果なども活用しながら、必要に応じてケース会議を開き、全校態勢でいじめや不登校児童の問題の解決を図る。

進路指導の重点

- ・家庭や地域社会と連携協力し、一人一人の児童のよさや可能性の発見に努める。また、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、個々が共通して当面する課題を考察する活動を通して、よりよく改善しようとする資質・能力を育成する。
- ・中学校との連携を図り、情報交換などを密接に行い、特別活動や授業交流活動等を通して、中学進学に対する希望や意欲をもたせる。

本校の授業改善に向けた視点

※プランの実効性を高める校長の方略

- ・年5回の研修や3回の研究授業を通して教員の授業力向上を図る。
- ・自己申告時や日常の授業観察を通して指導助言を行う。
- ・地域人材・環境を活用した体験的学習活動の充実を図る。

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>言語活動を重視し、基礎的基本的な知識・理解の習得と思考力・判断力・表現力を育成する。そのために、繰り返し学習や習熟度別学習、問題解決学習などの指導法を改善する。</p> <p>児童理解に基づく教材・教具等の工夫や整備を行い、学習環境の充実を図っていく。</p>	<p>授業時数を確保できる教育計画を立て、実施する。</p> <p>「朝学習」を週3回実施し、読書・漢字計算練習を通して基礎学力の定着を図る。</p> <p>放課後は3～6年で週1回の「多摩小タイム」、土曜日は年間6回の土曜日の課外授業、夏季休業中は2日間の夏季学習教室を行い、補習を充実させる。</p>	<p>校内研究授業を実施し、教員の専門性を高め、資質の向上を目指していく。</p> <p>若手教員による授業研究会を学期に1回程度ずつ実施し授業力の向上を図る。</p> <p>OJT研修を計画的に実施し、教員相互の教え合い学び合いを促す。</p>	<p>年間指導計画を基礎として、観点別評価を加味した評価規準の設定並びに評価の改善に努める。</p> <p>授業参観や道徳授業地区公開講座等で保護者等からアンケート（評価）を回収し、改善に生かしていく。</p> <p>学校関係者評価を行い、指導方法について保護者や地域の方の意見を参考にし、指導法の改善を図る。</p>	<p>児童の家庭での過ごし方について実態調査を行い、その結果を基に、家庭学習や規則正しい生活習慣等が定着するよう、家庭と連携を深めていく。</p> <p>各教科や総合的な学習の時間において、地域の人材・環境を生かした教育活動を行い、地域から学ぼうとする心情や地域を愛する心を養う。</p>